

教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日 平成31年3月24日

グループ名	学級会指導過程研究会	フリガナ 代表者氏名	福田 俊彦
学校名 (代表者)	練馬区立南町小学校	電話番号	03-3993-2430
研究テーマ	主体的、対話型、実践的な学級会指導過程の工夫		
研究期間	平成31年4月1日 から 平成31年3月31日 まで		
研究結果 の概要 ※詳細は別 紙により 報告	<p>I 研究の概要</p> <p>学校現場では、学級会の指導に関する課題として、以下のことが上げられている。本研究は、事前の活動、本時の活動、事後の活動における指導と各活動の関連を図ることに基づき、課題の解決を図るために進めてきたものである。</p> <p>II 研究のコンセプト</p> <p>「学級会の話合いを上手にさせたいという本時の活動のみに重きを置いていないか。」「話合いのテクニックの指導に向かっているか。」学級会は、「事前の活動」「本時の活動」「事後の活動」で成り立っている。その指導過程を通して、社会、集団の形成者としての「見方・考え方」が働き、よりよい人間関係を築き、よりよい学級・学校生活を創る自主的・実践的な態度がはぐくまれていくものである。単発的な指導、部分的な指導ではなく、指導過程を見据え、活動間のつながりを捉えた指導観をもつ必要がある。つまり、特別活動の方法原理である「なすことによって学ぶ」を指導者と児童が共有することが重要となる。</p> <p>III 研究のコンセプトに基づく検証</p> <p>1 学級会の学習過程表の作成</p> <p>学級会のオリエンテーションを各学級において行った。本時の活動となる話合いが話合いの計画を立てる事前の活動、決めたことを実践する事後の活動とのつながりの中で成り立っていることを「学級会の学習過程表」の作成を通して可視化し、実践を通してその把握を体感させた。</p> <p>2 合意形成を進める活動関連図の作成と検証</p> <p>合意形成が行われた学級会の授業を基に、「事前」「本時」「事後」でどのような指導の要素があったかピックアップした。合意形成が図られる学級会の指導の要素には共通点があり、その要素を配列することにより指導の場面に落とし込み、その成果を把握しようとした。</p> <p>3 ポートフォリオで学びの蓄積を</p> <p>児童が成長を実感できよう活動の蓄積を行わせ、振り返りの有効性を把握した。</p>		
その他 特記事項	学級会の指導を通して、学級会の在り方を教師と児童が実践を通して共有していくことに、児童の自主的・実践的な態度をはぐくむ効果があることが明確となった。添付資料のように視覚化することは、指導過程を捉えやすいことへの一助となっている。		

研究グループ名 学級会指導過程研究会

研究テーマ 主体的、対話的、実践的な学級会指導過程の工夫

【グループ研究の成果】

学級会の指導を系統的に積み重ねる中で、よりよい人間関係を築くこと、よりよい学校、学級生活を創ることを、子供は経験を通して学んでいる。系統性を担保するのは、教員が学級会の学習過程を共有し、共通実践することである。今回のグループ研究を通して、以下のことが明らかになった。また、教員が指導過程を共有するための図表（別紙1）を作成し活用した。事前、本時、事後の活動を指導する上での確認にも使えるものである。また、合意形成の指導を指導過程で捉える意識をもてるように、合意形成を進める指導の関連図（図表2）を共有し授業実践を通して検証した。

[事前の指導]

1 議題の選定

適切な議題の条件として、みんなで話し合っ合意形成することができる内容、みんなの学級・学校生活に関わる内容、みんなで実践できる集団活動であることを示している。条件を示すことで、また、話し合うことができない内容について指導することで適切な議題を選択する力が付いた。

2 提案理由の吟味

合意形成の根拠となる提案理由について、現状を捉えること、現状をよりよくするためにすること、そのことによってめざすことができる学級の姿を具体的に文章化した。また、その文章の中でもキーワードとなる言葉を色付けしたり、線を付けたりすることで、子供への意識化が図られた。発言の際

の理由から捉えることができた。

3 社会参画

話し合いへの意欲を高めるため、(1) 自分の考えを事前にまとめ、問題への自己関与を高めるため、学級会ノートを配布した。(2) 学級会コーナーに、次の学級会で話し合う議題、提案理由、話し合うことを掲示した。また、事前に出されている子供の考えを短冊に書き掲示することで、子供の話し合いに対する関心を高めていった。

[本時の指導]

1 構造化・可視化・操作化

短冊に書かれている意見を種類別にまとめて黒板に掲示すること、話し合いの中で意見をくつつける時に短冊を移動させることで、子供が思考しやすい、話し合いが見えやすい環境を創ることで、合意形成への経験を積み重ねることができた。

2 適切な指導のもと

指導助言の場面は、子供の経験の程度によるが、話し合いを進める上で困っているときを基準として、話し合いが停滞している時には、どのように進めたらよいか、全体に聞こえるように助言した。助言を全体が受け止めることは、話し合いの進行に効果があるだけでなく、司会グループとしてどのように話し合いを進めるかという子供たちにとっての学びの場となった。

3 振り返りの効果

話し合いを振り返る視点は、前回の自分と比べてどうであったか、前回の学級会と比べてどうであったかである。子供たちにとって自己評価、他者評価

の基準が明確になった。また、振り返りを積み重ねることで、子供の評価力の高まりが見られるようになった。自分の頑張りを客観的に捉える、他者の成長を認め喜び合えることへとつながった。

4 活動のつながりを意識して

教師の終末の助言では、（１）司会グループへの労い（２）話合いの中でのよかった発言内容（３）これまで以上に頑張った子供の姿（４）実践への期待（５）次の学級会への課題 を具体的に示すことにある。子供はよさを受け止めつつ、次の成長への意欲を高めることとなった。

[事後の指導]

1 見通しをもつ

スケジュールカレンダーを学級会コーナーに掲示する。子供が自らの役割への自覚を高め、見通しをもって活動できるようになった。

2 実践活動を学びに

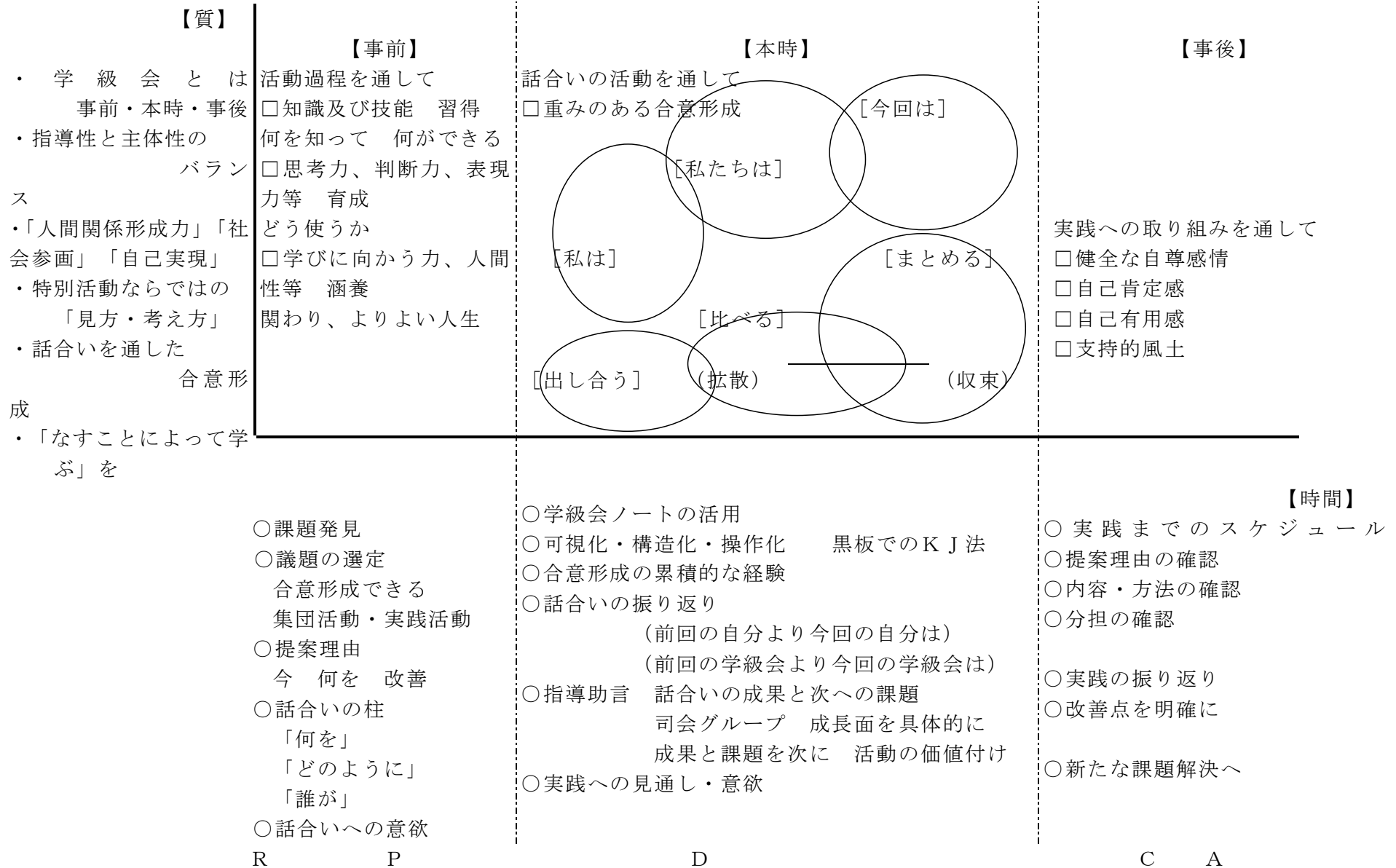
実践後の子供の振り返りは、話合いでの提案理由に示されている姿に近づいたか、何が次の課題かを捉えることができるようにする。「なすことによって学ぶ」指導方法とする特別活動において、振り返りを丁寧に行ったことで、子供が提案理由に迫る姿を取り上げることができるようになった。

3 実践活動の価値付け

実践後の終末の助言として、（１）話し合った時の提案理由に向かっていたか（２）提案理由に即した子供の言動（３）次への期待 学級生活への期待がある。これらを具体的にを行うことで話合いの大切さ、次の話合いへの意欲の高まりが見られた。

学級会の学習過程

学級会にストーリー性を（育成を目指す資質・能力を明確に意識して）



(図表2) 合意形成を進める「事前」「本時」「事後」の活動 関連図

集団や社会の形成者としての
見方・考え方

